記者発表資料

平成２１年１０月　２日
東 北 地 方 整 備 局

平成２１年度第２回新技術活用評価会議を開催します
～事後評価４件を審議～

国土交通省では、技術開発の促進及び新技術を公共工事で積極的に導入していくため、平成１８年８月より、「公共工事等における新技術活用システム」を本格運用しています。

これに基づき、各地方整備局等において、新技術の審査・評価等を行うため、新技術活用評価会議を設置しています。

東北地方整備局では、１０月８日に「平成２１年度第２回新技術活用評価会議（座長：鈴木基行東北大学大学院工学研究科教授)」を開催します。

今回は、事後評価※1４件を審議します。

※１．事後評価：新技術活用の後に「活用等の効果」を評価

【開催概要】

日　　時：平成２１年　１０月　８日（木）　１４：００～１６：００
場　　所：東北地方整備局 大会議室（仙台市青葉区二日町9-15）
取　　材：当日の取材は､企画部長挨拶までとさせていただきますので予めご了承願います。
　　なお、各技術の評価結果は、後日記者発表（投げ込み）する予定です。
審議案件：１．事後評価　（１）技術名称：袋詰脱水処理工法
　　（２）技術名称：仮橋仮桟橋斜張式架設工法
　　（３）技術名称：竹割り型構造物掘削工法
　　（４）技術名称：気泡混合補強土工法

※各技術の概要は、資料－１参照。
※各技術の詳細情報は、新技術情報提供システム［NETIS］で提供しています。
　NETISアドレス：*http://www.mlit.go.jp/netis/*
※東北地方整備局新技術活用評価会議の委員名簿は、参考資料参照。

＜発表先：東北専門記者会＞

国土交通省　東北地方整備局
仙台市青葉区二日町9-15　　電話　022(225)2171(代)

企画部　施工企画課長　　阿曽　貢貴　（内線３４５１）
　　施工企画課長補佐　　上林　喜久男（内線３４５２）

資料－１

平成２１年度第２回新技術活用評価会議_審議案件　技術概要一覧

審議区分	技術名称	NETIS 登録番号	NETIS申請者 （技術開発者）	技術概要（NETISより抜粋）	
				技術分類	何について何をする技術なのか?
事後評価	袋詰脱水処理工法	KT-020065	ハイグレードソイル研究コンソーシアム	土工 土工 残土処理工	高含水比軟弱土をジオテキスタイル製透水袋に充填し、脱水を促進して土工材料(盛土材や埋土材、植栽基盤、他)として利用する技術である。
事後評価	仮橋仮桟橋斜張式架設工法	KT-990222	株式会社 横山基礎工事	仮設工 仮設・桟橋工	仮橋・仮桟橋工を斜張設備により上部工架設先行型で施工する技術である。
事後評価	竹割り型構造物掘削工法	CG-020002	アイサワ工業株式会社	仮設工 その他	急傾斜地に構造物等を築造する場合の掘削土留め工法である。
事後評価	気泡混合補強土工法	KT-980397	財団法人土木研究センター	土工 軽量盛土工 軽量盛土	荷重及び土圧を低減したい箇所の盛土材・裏込材などの軽量化を図る技術である。

※各技術の詳細情報は、新技術情報提供システム[NETIS]で提供しています。
NETISアドレス：http://www.mlit.go.jp/netis/

事後評価「袋詰脱水処理工法」（KT－020065)

資料－1

〈技術概要〉
　高含水比軟弱土を土工材料（盛土材、埋戻材、植生基盤等）として利用する技術。
　従来は機械脱水工法により脱水し、土工材料として利用していたが、当該技術はジオテキスタイル製透水袋に充填し、自然脱水する技術であるため、大型建設機械使用の減少による安全性向上、イニシャルコスト（設備費）が軽減し経済性向上などが期待できる。



▲土工材料としての利用状況

事後評価「仮橋仮桟橋斜張式架設工法」（KT－990222)

〈技術概要〉
　仮橋・仮桟橋を斜張設備により上部工架設先行型で施工する技術。
　従来の仮橋・仮桟橋は原地盤からの足場構築を行い下部工を設置後、上部工の架設を行っていたがしていたが、当該技術は斜張設備を用い上部工から施工するため、原地盤からの足場構築による高所作業が不要となり安全性の向上が期待できる。また、架設単位で地組み出来るようユニット化し、ボルト連結からピン連結にしたことで上部工と下部工の並行作業が可能なり施工性の向上が期待できる。



▲施工状況

事後評価「竹割り型構造物掘削工法」（CG－020002)

資料－1

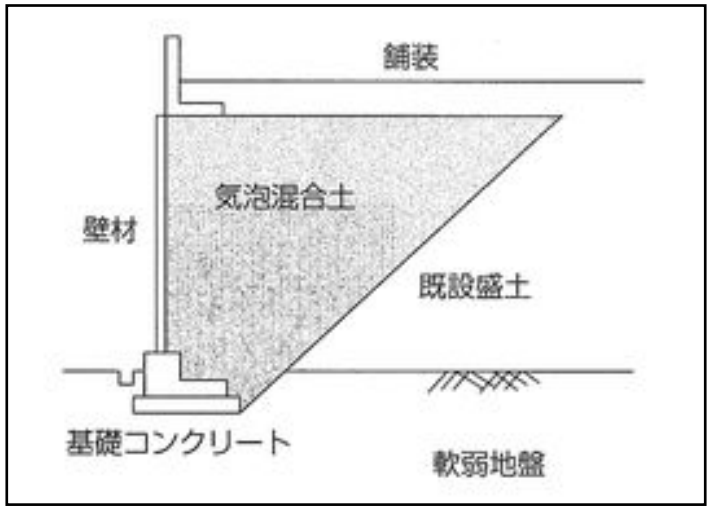
〈技術概要〉
　急傾斜地に構造物等を構築する場合の掘削土留め工法。
　従来はグランドアンカー併用親杭横矢板方式土留め工法などにより土留めを行い構造物の施工を実施していたが、当該工法は斜面上に鉄筋補強工と吹付けコンクリートで周辺地山を補強し、地山を垂直に掘り下げながら土留めを行う。従来工法よりも掘削土量や鋼材使用量の削減を図ることが可能となり、経済性の向上が期待できる。



▲施工状況

事後評価「気泡混合補強土工法」（KT－980397)

〈技術概要〉
　荷重及び土圧を低減したい箇所で盛土材・裏込材などの軽量化を図る技術。
　従来は補強土壁工法により土留めを実施していたが当該技術を利用することにより、周囲への土圧軽減を図ることが可能となり、補強材が不要となるなど経済性の向上が期待できる。



▲参考図

参考資料

東北地方整備局新技術活用評価会議　委員名簿

常任・非常任別	氏　名	所　属　・　役　職	備　考
常任委員	遠藤　孝夫	東北学院大学 工学部 環境土木工学科・教授	
	風間　基樹	東北大学大学院 工学研究科・教授	
	京谷　孝史	東北大学大学院 工学研究科・教授	
	鈴木　基行	東北大学大学院　工学研究科・教授	
	高橋　　弘	東北大学大学院 環境科学研究科・教授	
	前田　直己	東経連事業化センター　産学マッチング委員会・委員	
	村井　貞規	東北工業大学 建設システム工学科・教授	
	元田　良孝	岩手県立大学 総合政策学部・教授	
	安部　友則	(独)土木研究所　水工研究グループ長	
	平石　哲也	(独)港湾空港技術研究所　海洋・水工部長	
	川嶋　直樹	東北地方整備局　企画部長	
	林崎　吉克	東北地方整備局　東北技術事務所長	
非常任委員	青山　俊行	東北地方整備局長	
	宮本　卓次郎	東北地方整備局　副局長	
	関　博之	東北地方整備局　副局長	
	田上　澄雄	東北地方整備局　河川部長	
	三浦　真紀	東北地方整備局　道路部長	
	山本　浩	東北地方整備局　港湾空港部長	
	磯部　正	東北地方整備局　営繕部長	
	佐藤　正勝	東北地方整備局　仙台港湾空港技術調査事務所長	

（敬称略、産学委員は五十音順）